

児童研だより

2021年10月 No.65



発行：聖徳大学 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111 編集：聖徳大学児童学研究所

CONTENTS

児童学について考える

子ども観を共有する

～俯瞰と個別の視点から児童学を捉える～

連載第9弾：社会福祉学科長と本企画に携わっている先生に、文化人類学や福祉・養護教諭養成から見た児童学についてうかがいます。

2



園庭の遊具での死亡事故と法的責任

—保育士の個人責任か保育所の組織体責任か—

遊具(ウンテイ)の死亡事故で園長・担任保育士の他3名の過失を否定し、保育所の過失を認めたケースを考えます。

甲斐 聡 4



被養育経験と自身の養育態度との関係

—養育の受容と育児サポートに注目して—

育児の経験により、被養育経験の捉え方が変化するのか、自身の養育態度にどのような影響を与えるのかを考察します。

5



保健室

秋から冬に流行しやすい子どもの感染症

6

新型コロナウイルス感染症についての連日の報道に埋もれて忘れがちですが、冬に子どもに流行する感染症、風邪・RSウイルス・感染性胃腸炎・インフルエンザについて各症状や予防法を解説します。

研究室訪問



疾患のある子どもと家族への支援の実践や研究から、看護における取り組み、保育・学校現場での疾患のある子どもとの関わり方のポイント、異なる職種での協働についてお聞きします。

阿部 頼子 7

私の本棚より

児童虐待事件の詳細を知ることで子どもの虐待問題の再考を促す一冊と、英語嫌いをにつくらないために簡単な語彙が繰返りリズムカルに繋がる美しい色の英語絵本を紹介いたします。

齊藤 千鶴 一ノ瀬 喜子 8

第57回聖徳祭 児童学研究所・保健センター合同企画 「ウイズコロナ、ポストコロナ時代の健康課題～保育者の立場で、 子どもたちを守るために知っておくべきこと～」のご案内

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが宣言された2020年3月以降、全世界に感染が拡大し、ワクチンの接種が進んでいる現在(2021年8月末)でも、その収束／終息のめどはたっていません。ウイズコロナ(コロナと共に)、ポストコロナ(コロナ後)の時代の健康課題、というテーマを設定しましたが、残念ながら未だ、COVID-19がありふれた感染症となるウイズコロナの状況にも至っていないようです。

むしろ緊急事態宣言が多くの都道府県に拡大され、医療提供体制の逼迫という段階ではなく、まさに医療崩壊という状況の中で、私たちはどのように自分の健康を守るべきか、改めて考えてみる必要があります。

昨年、第56回の聖徳祭でCOVID-19のことを取り上げたときには、「不幸中の幸いとして、子どもの感染者に重症例がほとんど報告されていません」という状況でしたが、新たな変異株であるデルタ株(通称、インド型)の新型コロナウイルスは、家庭内感染による大人から子どもへの感染拡大だけではなく、子ども同士の感染による保育所、学校などのクラスターも起こしています。

保育者を養成する教育機関として、子どもたちを守るためにどうすればよいのかを、今一度、皆さんと一緒に考えるための企画を立てました。大学構内に足を運んでいただけないのが残念ですが、精いっぱい企画ですのでご覧ください。

第57回聖徳祭 児童学研究所・保健センター合同企画

テーマ

「ウイズコロナ、ポストコロナ時代の健康課題
～保育者の立場で、子どもたちを守るために
知っておくべきこと～」

日時

令和3年11月6日(土)・7日(日)
10:00～15:00

開催方法

オンラインで開催

※詳細は児童学研究所(知財戦略課)ホームページをご覧ください。

<https://www.seitoku.jp/chizai/?p=3556>

☆主な企画

- ◆新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の始まりから現在まで
- ◆新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミック下における感染症の現況
- ◆新型コロナウイルス・ワクチンを知ろう～子どもに接種は必要か?
- ◆新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と子どもたちの生活
- ◆改めて保育現場の感染症対策を考える